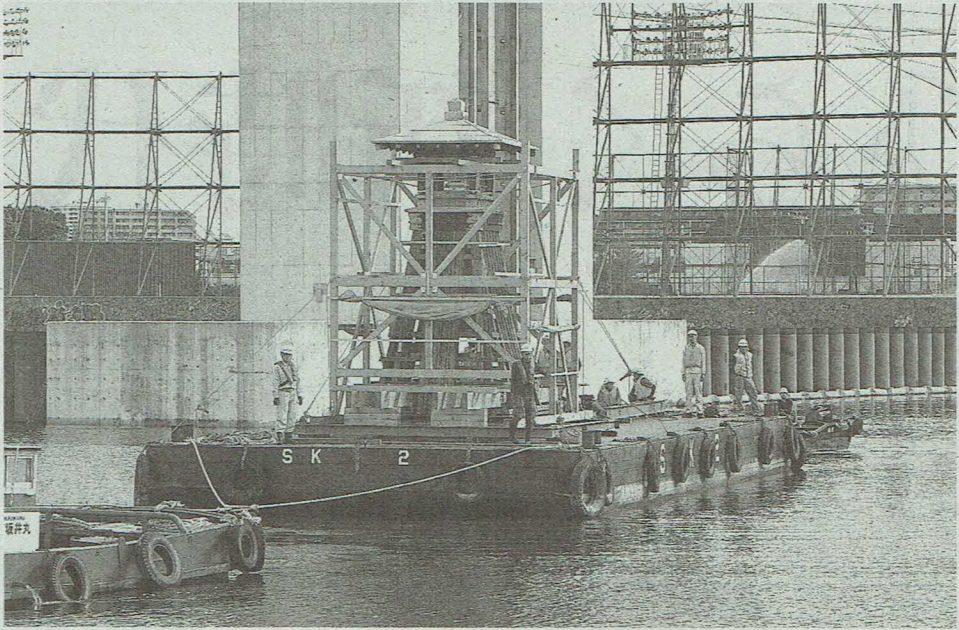


今津灯台 200メートルの船旅 対岸移設



台船に載せて運ばれる「今津灯台」
11日前、西宮市、筋野健太撮影

200年以上にわたって今津(西宮市)の港を照らしてきた「今津灯台」が1日、約200メートル南西の対岸に移設された。石積み土台も今後1カ月ほどかけて対岸に移す。11月初旬には、この日灯台を仮置きした場所より約25メートル北東の場所へ復元される。

県は移設に備え、事前に灯台の本体部分を木枠と鉄骨で固定。運搬時に本体がゆがまないよう細心の注意を払った。本体の重さは約3ト。木枠と鉄骨をあわせた重量は約4・7トにも及び、約100トのつり上げ能力のある大型クレーン車で慎重につり上げ、台船に載せて対岸に運んだ。

県は2014年度から、今津地域を流れる新川、東川の河口部で南海トラフ巨大地震による津波や高潮対

策を進めている。新川河口部にはすでに新たな水門が完成。排水機能が強化された新排水機場も設置される予定で、灯台があった場所は、増水した川の水を排水機場に流す水路になる。一連の工事は26年度に終わる予定で、県によると、今津地区を中心に最大4・19センチ予測されている浸水域が約9割減るといふ。

今津灯台は1810(文化7)年に市内の酒造大手「大関」が建設し、現在の灯台は1858(安政5)年に再建したもの。196

一連の工事は26年度に終

年に再建したもの。196



齋藤知事は「兵庫のかたにも県庁に食べに来てもらったり、スーパーで福島のものを買ったりして、支援の輪を広げてほしい」と話した。

ドリームカフェは平日午前10時～午後5時。お結美定食は午前11時半から1日20食限定で提供される。

(熊谷姿慶)

「全力応援」県庁カフェで提供

福島と兵庫 結ぶ定食

東京電力福島第一原発の処理水の海洋放出を巡り、風評被害が懸念される福島県を応援しようと、兵庫県は1日、県庁2号館1階にあるドリームカフェで福島県産食材を使ったメニューを始めた。

第1弾として提供する「お結美定食」(税込み700円)＝写真＝は、福島県産のちりめんや米を使ったおむすび、福島県の郷土料理の「いかにんじん」などを提供する。カフェの関係者が福島県に赴き、地元でとれたり加工されたりした食品を買い付けたという。

この日は齋藤元彦兵庫県知事や県議会議員長・副議長が試食した。完食した

8年に海上保安庁が民営の航路標識として認定した。市文化財課によると、現役の木造灯台としては国内最古。移設された灯台周辺は港湾緑地として整備される予定で、誰でも灯台を間近で見ることが出来る。

(真尾法彦)

「神戸と仲良く」明石市長が発言

共同会見でアピール

明石市の丸谷聡子市長は1日、神戸市の久元喜造市長と共同で開いた、生物多様性の保護に向けた連携協定の発表会見で、「丸谷市



自然に関するお互いの著書を交換した神戸市の久元喜造市長(右)と明石市の丸谷聡子市長11日、神戸市役所

阪神

神戸総局
〒650-0035
神戸市中央区浪花町60
電話 078(331)4144
fax 078(331)4149

阪神支局
〒662-0917
西宮市与古道町1-1
電話 0798(33)5151
fax 0798(35)2070

購読のお申し込み
配達お問い合わせ

0120-33-0843
(7:00~21:00)

広告(土日祝除く)
神戸戸 078(221)2424
折込み広告は
阪戸 06(6226)1290
大神戸 078(382)3101